

油彩画・新井信一展

～ごあいさつ～

私たちの郷土熊谷は、大久保喜一が指導した県内初の洋画団体「坂東洋画会」（現在の朱麦会）など、早くから芸術の裾野が広がるような活動が盛んで、そうした影響からか、美術教師として教鞭をとる傍ら、自身の作品を精力的に制作・発表する作家が数多くいます。その中の一人に、新井信一氏が挙げられます。

氏は昭和3年に熊谷市上中条に生まれ、県立熊谷高校を卒業後に玉川大学通信教育部に入学、昭和34年には大久保隆史、木村昭彌ら同志8人と「蒼騎会」を創立、以後同会の運営委員、同展審査員等を務め、会の発展に寄与しました。氏の作品も第21回展の「越後湯沢」が蒼騎会賞を、そして第24回展の「晩夏」が東京都知事賞を受賞するなど、傑作を発表しています。

そして「蒼騎会」は、昭和44年から全国公募団体として展覧会を開催、平成22年には第50回記念展を開催するなど、全国的にも有数の規模を誇る絵画団体として、現在も精力的に活動を行っています。

県内の展覧会では県展、県北展、市美展に出品し、市美展審査員、埼玉県美術家協会会員となるなど、その力量を認められ、数々の要職にもついています。

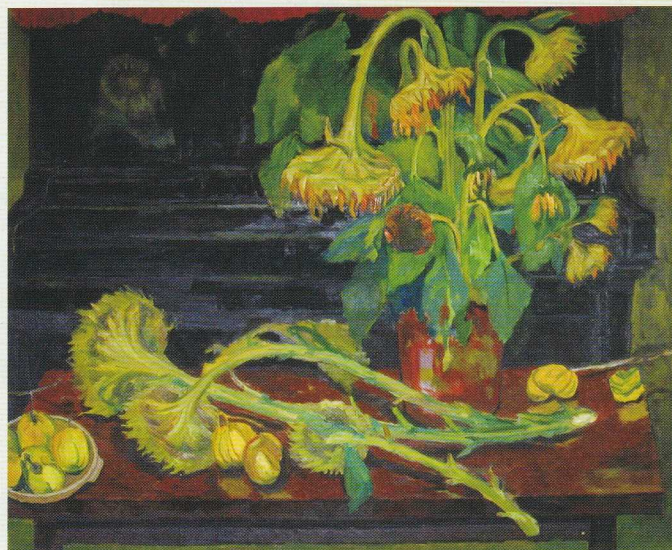
こうした画業・会運営の傍ら、市内の小学校の美術教諭として教鞭を取りました。佐谷田小、熊谷西小、別府小などで多くの小学生に“美術をする心”を伝え、平成6年には県内の美術界をけん引する会の一つである「朱麦会」の会長に就任して、絵画制作と同時に後進の育成にも力を注ぎました。このように精力的に活動されてきた氏でしたが、平成13年に72歳で亡くなりました。

今回展では所蔵品を中心に、氏の代表的な作品を展覧いたします。その大胆でエネルギッシュな画風から制作される作品は迫りに満ち、見る人に強い印象を持たせます。

これらの作品をとおして、中央画壇で、そして郷土熊谷で活躍した画家・新井信一の絵画に対する情熱を感じていただければ幸いです。



制作風景



晩夏 昭和59年 第25回蒼騎会展 東京都知事賞

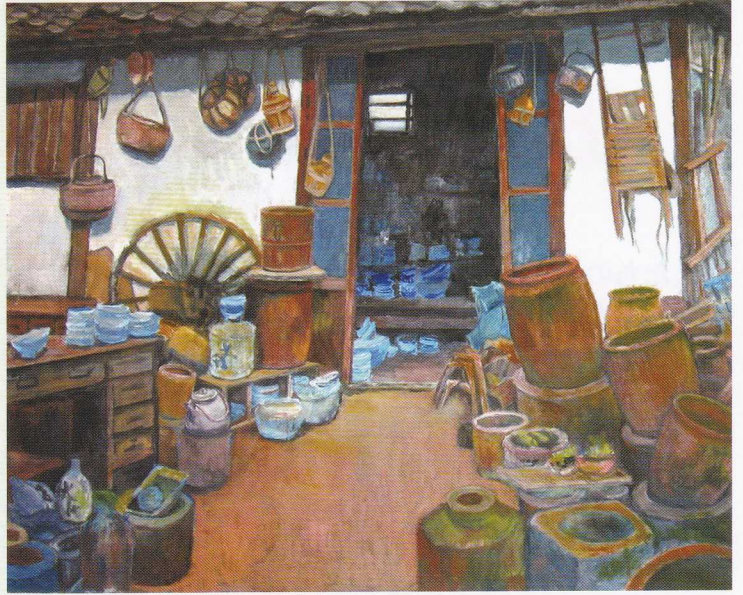
会期：令和元年6月4日（火）～9月1日（日）

[休館日：毎週月曜日（祝日は除く）、6/25、6/26、7/5、7/16、8/2、8/13]

時間：午前9時～午後5時 会場：熊谷市立熊谷図書館 3階 郷土資料展示室



鳩舎 昭和43年



古物をあきなう店 昭和63年



円良田湖の桜 平成元年



雪の日 平成7年



妙高遠望 平成9年 第18回県展

※このチラシは、2,000枚制作し、制作費用は1枚あたり12.8円です。